

# 青梅市立第一中学校 グランドデザイン —「言葉の力」を中核とした学校づくり—

言葉は、知的活動、感性・情緒、コミュニケーション能力の基盤をなします。また、様々な学問や技術を学ぶ際にその基礎となり、文化の継承と創造に欠くことができません。こうした言葉の力生徒に身に付けさせるとともに、教師が全教育活動の推進に当たって生かし高めることで、いわゆる課題解決型の学校を目指します。

本校では、言葉の力を「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」の四つの観点から捉え、言葉の力で〈生かす〉、〈深める〉、〈高める〉をキーワードとし、多くの公立中学校が抱える主な課題の解決に向けて具体的方策を立て、組織的・計画的に実践してまいります。

## 「言葉の力」

<p><b>課題</b> 学校経営方針が組織の全体に浸透せず、学校が抱える多様な課題に、組織を挙げて迅速に対応することができない。</p> <p>校長は課題解決に向けた経営計画を策定・周知する。副校長は、学校のチームとしての力を生かし、計画の実施・評価・改善をリードする。</p> <p><b>実践1</b> 日々の幹部会及び週ごとの運営委員会の「調整・統合」の機能強化</p> <p><b>実践2</b> 経営改善に資する学校評価の実施 —学校運営連絡協議会の対話の促進—</p>	<b>組織</b>  <b>人材</b>  <b>地域の教育資源</b>	<b>生かす</b>
<p><b>課題</b> 教師の世代交代が進み、教育に関わる様々な経験や知見の継承が難しくなっている中、経験の浅い教師が組織運営を担う必要性が高まっている。</p> <p>経験豊かな教師が知見を継承する場と機会を設けるとともに、個々の教師の能力・適性を考慮しつつ、育成の視点に立った計画的な人材活用を行う。</p> <p><b>実践3</b> 学級経営研究会の計画的な実施</p> <p><b>実践4</b> 運営委員会における研修内容の周知及び名言を生かした自己啓発</p>		
<p><b>課題</b> 地区の教育資源に関する教師の知識・理解が十分ではなく、学校の教育活動に生かし切れていない。</p> <p>地区の自然や伝統・文化、人材、施設等の教育資源について、教師が理解を深め、学校の教育活動の推進に生かす。</p> <p><b>実践5</b> 「地域から学ぶ日」の企画・運営</p> <p><b>実践6</b> 青梅大祭の巡回や地区懇談会への参加</p>		

<p><b>課題</b> 人権を侵害する教師の言動等により、生徒との関係を築けなかったり、日頃の人間的な触れ合いが十分でなく、心のサインをつかめなかったりすることがある。</p> <p>生徒のよい点や進歩の状況などに着目してほめ励ますとともに、話を傾聴し、考えを引き出す。</p> <p><b>実践7</b> 教師による挨拶プラス一言運動の実施</p> <p><b>実践8</b> いつでも誰にでも相談週間</p>	<b>生徒との信頼関係</b>  <b>保護者との信頼関係</b>  <b>地域との連携</b>	<b>深める</b>
<p><b>課題</b> 家庭の要望や意見等を把握して教育活動に生かすことや、相互の意思疎通を図ることが十分でなく、保護者からの信頼を得られないことがある。</p> <p>問題行動への対処だけでなく、個々の児童・生徒の自尊感情の育成や規範意識の醸成、学力向上などの視点をもって計画的に連携を進める。</p> <p><b>実践9</b> 「行きたい」、「来てよかった」、「行って得した」保護者会の企画・運営</p> <p><b>実践10</b> 地区懇談会への参加</p>		
<p><b>課題</b> 学校からの一方的な連携に終始し、双方にメリットのある連携を築けない。また、地域の要望や意見等を的確に把握できず、期待に応えることができない。</p> <p>家庭・学校・地域のそれぞれの役割を明確にし、連携・交流の在り方や地域の活性化につながる教育活動について共に考え、実践する。</p> <p><b>実践11</b> 学校運営連絡協議会の委員との対話の促進</p> <p><b>実践12</b> 郷土の伝統・文化を学ぶ機会の設定</p>		

## 考える力      感じる力      想像する力      表す力

### 高める

生徒の生きる力			教師の力
学力	人間関係形成能力	感性・情緒	
<p><b>課題</b> 各種調査の結果から、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題がある。</p> <p>国語科のみならず、各教科等に固有の言語能力を育成するため、それぞれの教科等の知識・技能を活用する言語活動の質をより一層向上させる。</p> <p><b>実践13</b> クリティカル・シンキングを取り入れた授業づくり</p> <p><b>実践14</b> 定期考査における記述式問題の出題</p>	<p><b>課題</b> 自分に自信がもてず、友達や仲間のことで悩むなど、人間関係の形成が困難な生徒が増加傾向にある。</p> <p>人間関係形成能力を「言葉を適切に用いて人間関係を築き、維持していく力」と捉え、学習と生活の両面場で対話に必要な言語能力を育成する。</p> <p><b>実践15</b> 生徒会による挨拶プラス一言運動</p> <p><b>実践16</b> 各教科等における対話的な学びの促進</p>	<p><b>課題</b> 心を揺り動かされる事物に出会った際、ただ直感的に捉え、例えば「わあー、すごい」という感情表現しかできない。</p> <p>語彙を豊かにするとともに、例えば、「何が」「どのように」すばらしいのかについて、具体的な表現を用いて伝え合えるよう、表現力を高める。</p> <p><b>実践17</b> 全校で取り組む朝の読書活動</p> <p><b>実践18</b> 国語科におけるブックトークの実施</p>	<p><b>課題</b> 教師に必要な四つの力のうち、「外部との連携・折衝力」と「学校運営・組織貢献力」について、校内研修等において十分取り扱われていない。</p> <p>二つの力の基盤となる「言葉の力」を、研修や日々の職務を通してより一層高めていく。また、読書を通じて、教育活動全体の基盤となる「教養・価値観・感性等」を身に付ける。</p> <p><b>実践19</b> 校務改善の企画・提案</p> <p><b>実践20</b> 保護者等への対応力を高める研修の実施</p>

